

よくわかる！

# 同時通訳システム



活用読本

改訂版 /2014

# どうしよう…!

新しい技術開発に関する**社内セミナー運営の責任者に任命**されてしまった。

しかも、**セミナーに出席する社員たちは語学に自信がない**という人ばかりなのに、**講師はアメリカ協力会社のネイティブ・スピーカー**だという。

**セミナーの日まで、あと3カ月。**

いったい何をどう準備していったらいいのやら…。

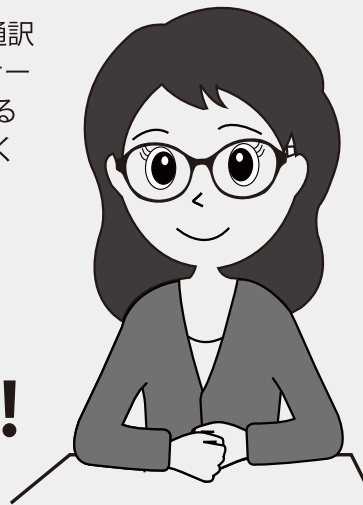


## 田中課長・40才

アメリカ企業の技術協力を得て、新規事業への展開を担当する事業開発部に抜擢される。意欲満々、チャレンジ精神も旺盛だが、社内セミナー運営に携わるのは今回がはじめてのため、あまり自信がない。

## ヘルプ女史

国際会議やセミナー、講演会など、同時通訳システムを利用したあらゆるコミュニケーションの運営に詳しい専門家。困っているサラリーマンがいると、どこからともなく現れる。



# こんにちは～！

こんなとき、ふっと思いつくのが“同時通訳”  
ですね。

テレビの衛星中継などで、**外国人のしゃべった言葉がリアルタイムで日本語に通訳**されていくのを見たことがあるでしょう。

これは“同時通訳システム”なる仕組みを利用しているから実現できるのです。

さて、皆さんの会社でも“同時通訳システム”を必要とする会議やセミナーなどを実施することがあると思います。

そこで、田中課長のようにその責任を任されたときに、戸惑わないよう、**準備と運営段階におけるヒント**をお教えしましょう！

## CONTENTS

“同時通訳システム”  
とは？

P.3-4

“同時通訳システム”  
を必要とするビジネス  
シーンは？

P.5-6

何をどう  
準備していったら  
いいの？

P.7-12

“同時通訳システム”  
に関してよくある  
ご質問

P.13-14

実際に  
運用する場面での  
注意点は？

P.15-16

『同時通訳システム』？  
それって、  
自動翻訳機の  
ことなんですか？



# あらあら…。それでは、 『同時通訳システム』とは何か。 そこからお話ししましょう。

ところで、“逐次通訳”というものをご存知でしょうか？  
これもテレビのニュース番組などでよく見かけますが、  
外国人がしゃべり終わると、通訳者がその言葉を日本人  
へ通訳し、それを聞いた日本人が質問すると、相手の国  
の言葉に訳して伝えるというものです。

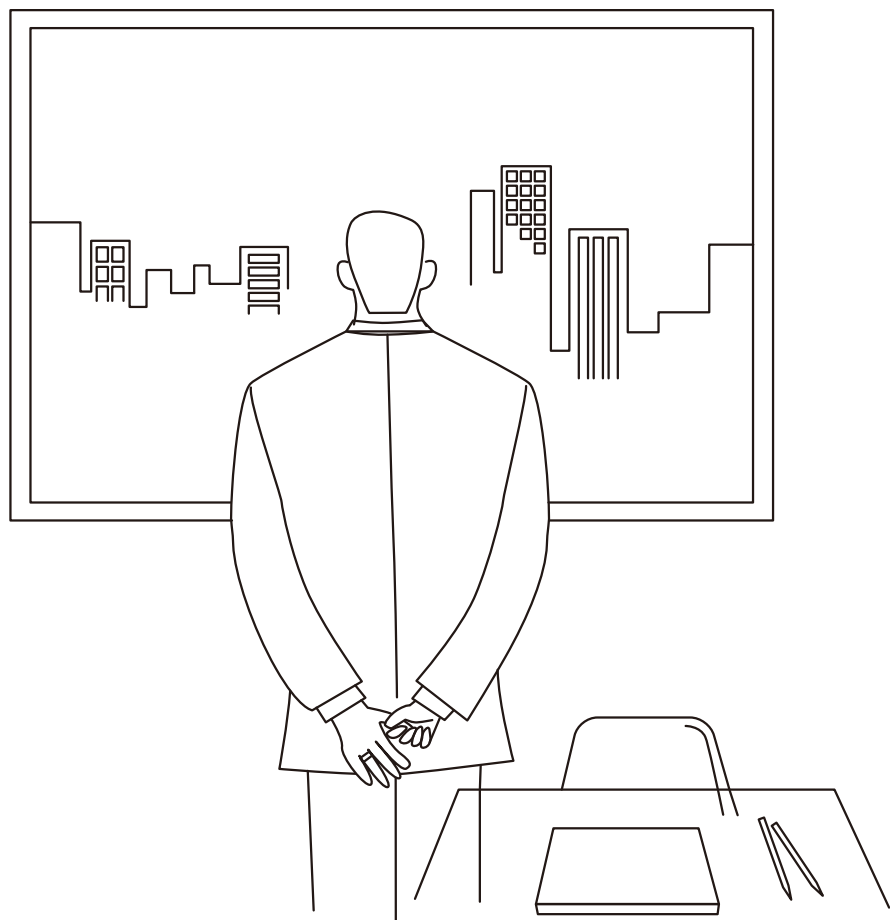
“同時通訳”とくらべると、コミュニケーションにタイム  
ラグがあることがおわかりでしょう。

そういう意味で、“同時通訳”は時間を大幅に短縮できる  
という利点があるだけでなく、話し手のペースを崩さず  
に会話を進行できるから、より自然なコミュニケーション  
を図れるのです。そして、これを実現させる仕組みが  
“同時通訳システム”です。



少し専門的な話になりますが、  
“同時通訳システムは音声制御部、  
同時通訳制御部、送・受信部、通訳  
者操作部、通訳ブース、録音制御部  
等から構成されています。そして  
話し手と通訳者の声を言語別に系  
統分けし、適切な音量や音質に整え  
て伝送する機能を持っているので  
す。

でも、『同時通訳システム』って、  
サミットや国連の会議などで使  
われているイメージがあるなあ…。  
はたして、社内セミナーでも  
利用できるんでしょうか？

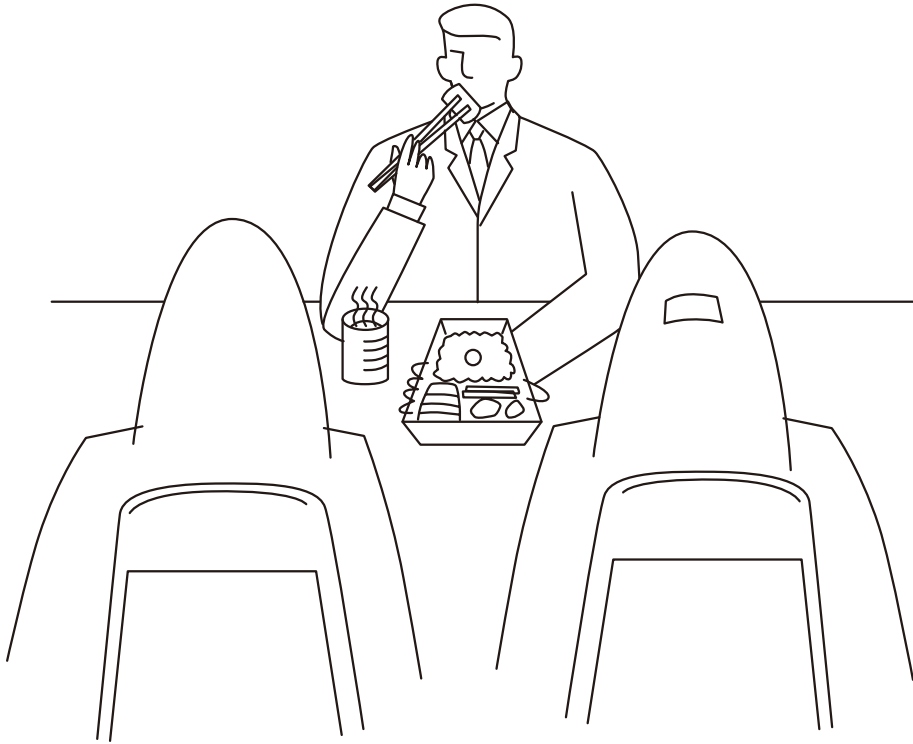


もちろんです  
これまでに『同時通訳システム』が  
どんな場面で活用されてきたか  
紹介しましょう。

- 企業内会議(研究・研修会議等)
- 新製品発表会
- 講演会(著名人・有識者を招いての講演等)
- セミナー
- シンポジウム(環境、文化、医学等)
- 学会議(医学、工学等)
- 展示会
- 衛星会議、TV会議、電話会議
- 国際会議(政治、経済等)
- 記者会見(国際会議、スポーツイベント、企業等)

このように**外国語をともなう、  
あらゆるコミュニケーション・シーンに  
活用できるのです。**

なるほど。それなら  
今度の社内セミナーには、  
その『同時通訳システム』を  
頼めばいいんだ…  
少しホッとしました…。





安心するのは少し早すぎます！  
『同時通訳システム』をたのむ前に、  
やらねばならないことが  
あるのですよ！



## ■会場レイアウト

①レイアウトを参考にテーブルや椅子等の配置を決めます。

ほんの一例ですが、参考までに紹介しますと、

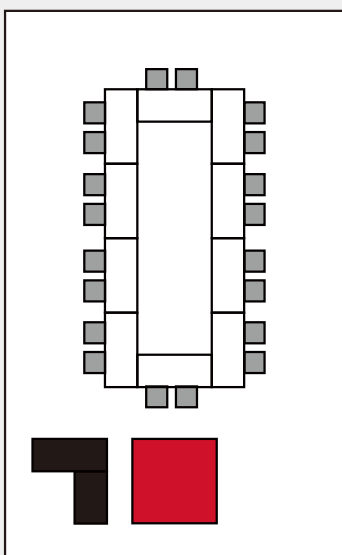
**口の字** / 国際会議や企業の役員会などで使われるレイアウトで、  
お互いの表情を確認できるというメリットがあります。

**シアター** / 式典や講演会などで、よく使われるレイアウトです。

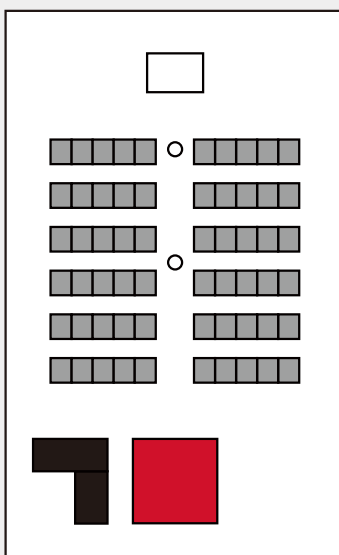
**スクール** / テーブルがセットされているから、資料を広げたりメモ  
を取ることができるからシンポジウムやセミナーなどで  
使われるんです。

今回の田中課長のケースなら、このスタイルがおすすめです。

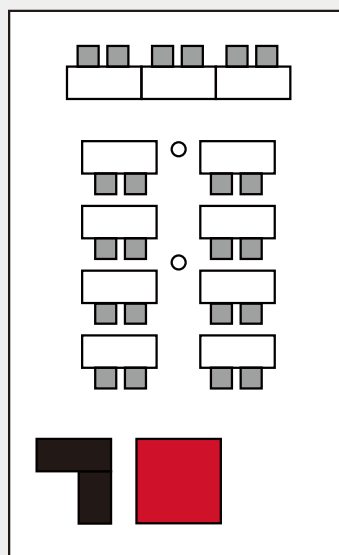
### ■口の字



### ■シアター



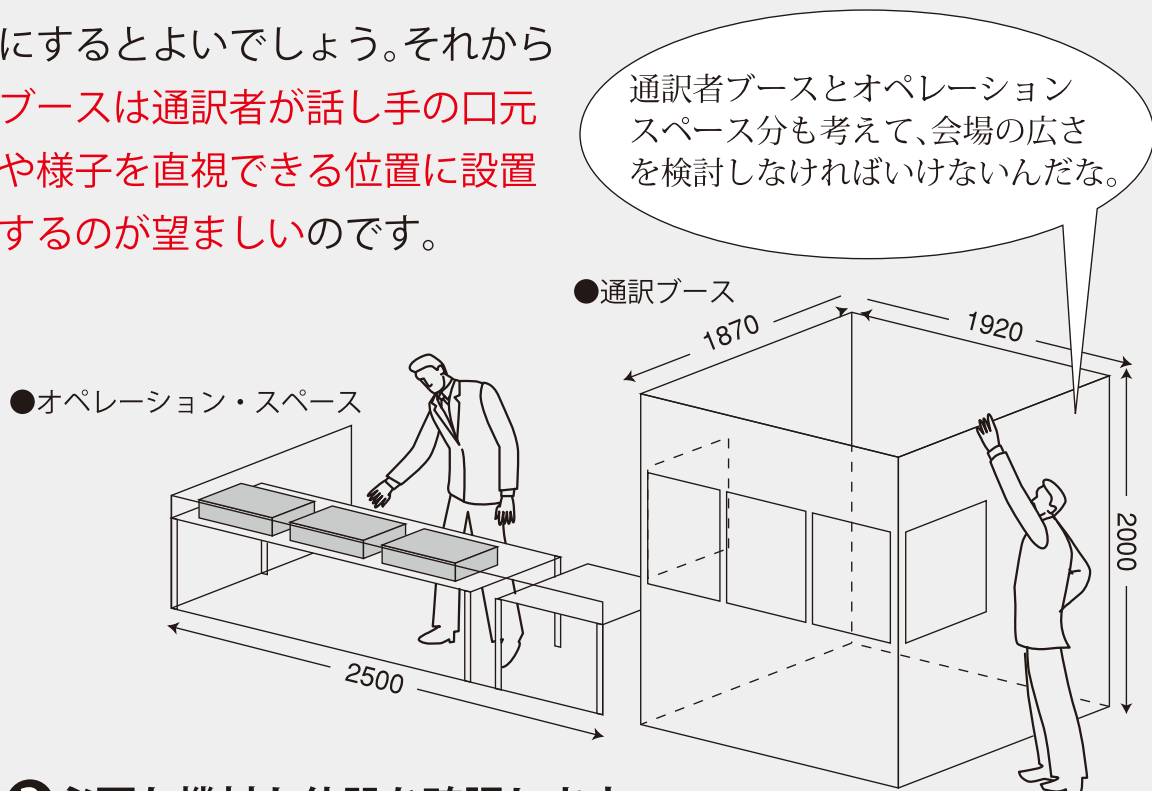
### ■スクール



■通訳者ブース、■オペレーション・スペース ■座席、□机、○質問者マイクロホン

## ② 通訳者ブースとオペレーション・スペースを確保します。

ここで忘れてならないのが、**通訳者ブースと“同時通訳システム”をオペレーションする技術者のためのスペースの確保**です。ちなみに通訳者ブースの大きさは通訳者の人数によって多少変わってきます。ISO で設定された国際基準を参考にするとよいでしょう。それから**ブースは通訳者が話し手の口元や様子を直視できる位置に設置するのが望ましい**のです。



## ③ 必要な機材と什器を確認します。

セミナー等で講演者がいる場合は、演台等の什器を置くスペースが必要です。また、スライドやパソコンデータ、DVDなどの**映像資料**を使用する場合は、スクリーンやモニターなどの**機材**を設置するスペースも考えておくとよいでしょう。

## ■会場を決定

“同時通訳システム”はホテルの宴会場やコンベンションセンターのホールに限らず、社内の会議室やミーティングルーム等でも活用できるのです。したがって、会場は必要な広さと予算、交通の利便性などを考慮に入れて、決定するとよいでしょう。

## ■通訳者の依頼

### ① 使われる言語の数や内容等で人数を決めましょう。

使われる言語の数によって、通訳者の人数も変わってきますが、一般的に2カ国語の通訳の場合、**半日(4時間以内)なら2名、1日(8時間以内)なら3名が目安**です。内容の難易度や通訳者の担当配分等によっては、人数をもっと増やしたほうが望ましい場合もあります。

### ② 専門分野に精通した通訳者を選びましょう。

各通訳者はある程度の専門分野(政治・経済・医学・薬学、文化・芸術、IT・工学等)をもっていますので、目的に合った通訳者に依頼するべきですね。

### ③ 早めに依頼しましょう。

同時通訳者は逐次通訳者と比べて人数も少なく、わが国での“同時通訳”の利用状況を見ると90%以上が日本語－英語間の通訳のため、これ以外の言語通訳者になると、さらにその確保がむずかしくなるのです。とくに、春や秋の会議トップシーズンになると優秀な通訳者は**引っぱりだこ**ですから、早めに依頼するか専門の通訳会社に相談しておくことが大事です。



ここまでのことができれば、後は放送サービスセンターへ電話するとよいでしょう。

ヘルプさん、どうもありがとう！

ハイ！HSCです。



## 今すぐ03-3357-3712へお電話を！

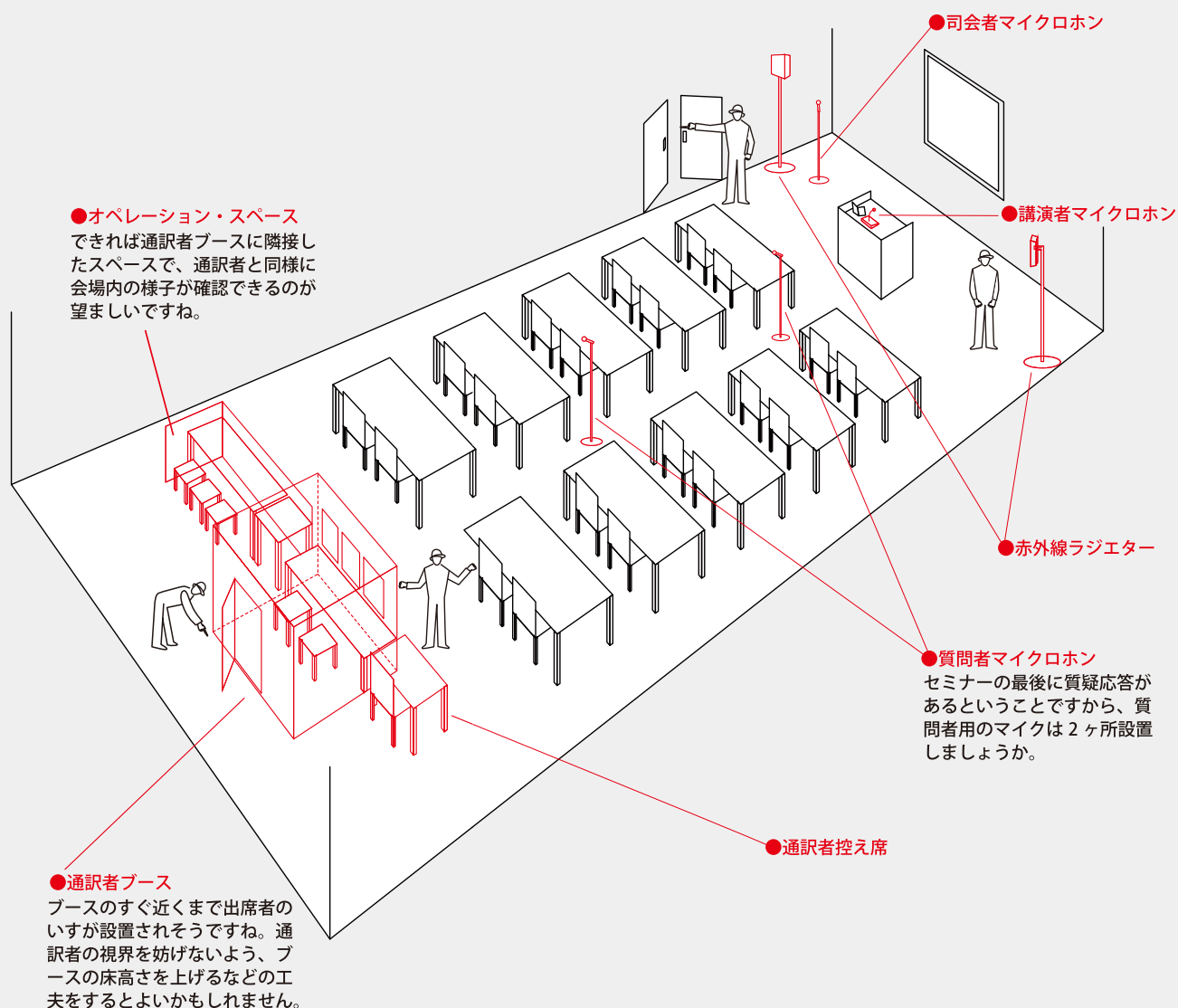
放送サービスセンター(HSC)は昭和39年設立以来、“同時通訳システム”のリーディングカンパニーとして、国際会議をはじめ数々の同時通訳コミュニケーションの舞台裏を支えてきました。その長年の経験から積み上げたノウハウと充実した機器によるサービス体制は、皆さまより高い評価をいただいております。

弊社へご依頼の際は、まずお電話にて次のことをお伝えください。

- 会議、社内セミナー、イベント等の種類
- 開催期日および時間
- 会場および広さ
- 出席者総数とその構成(話し手と聞き手の人数、講演者や司会者の有無および人数、通訳者の人数)
- 使われる言語の数等



**出席者総数 20 名なので、  
10×20mの社内会議室で  
行うことにしました。  
スクール形式で、  
日・英の通訳者ブース1つを  
想定しています。**





## 放送サービスセンターに寄せられるよくあるご質問にお答えします。

### Q1

“同時通訳システム”に種類はあるのですか？

### A1

赤外線方式、誘導無線方式、簡易型ハンディ方式、有線方式等があり、送受信部の制御の違いによって分類されています。

それぞれの特徴を活かし、運営面や予算面を検討したうえで選択することをおすすめします。

### Q2

会場内のマイクロホンどのようなタイプを使用すればよいですか？それによって“同時通訳システム”に影響しますか？

### A2

“同時通訳システム”と音響システムは非常に密接な関係にあり、ほぼ一体と考えてよいでしょう。話す人の音声をより確実に通訳者へ送るのは、会場の音声の調整にかかっています。たとえば、口の字型の会議のように、いつ、誰が話すのか予測

がつかない場合は、押しボタン式の会議マイクロホンがおすすめです。また、ワイヤレスマイクロホンを使用する場合は、電波障害等をふまえてできるだけ少ない本数に抑えます。



押しボタン式  
会議マイクロホン

### Q3

パソコンによるプレゼンテーションを行いたいのですが、注意する点がありますか？

### A3

映像資料（PCデータ、CD、DVD、USBメモリ等）は、事前に通訳者に見てもらうか、ハードコピー（プリントアウト等）をお渡しして確認してもらい、通訳者ブースはスクリーン等映像画面が見やすい場所に設置します。また、会場内の電源容量にも注意しながら、使用するPC等を含めた映

像機器や音響機器、“同時通訳システム”等、電源を必要とするすべての機器の電源を入れ、事前に動作チェックをしておくことをおすすめします。

#### Q4

あとで議事録を作成したいので、会議内容を録音することはできますか？

#### A4

MP-3 データでの録音を承っております。録音は言語別に会議の終了まで記録した後、録音記録メディア(CD-R、DVD-R、USBメモリ等)でお客様の再生環境にあったメディア仕上げができますので、議事録を作る際にお役立ていただけます。

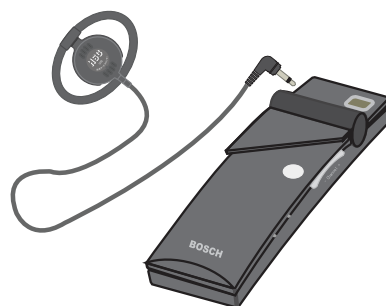
#### Q5

同時通訳レシーバーが紛失してしまう、ということもありますか？

#### A5

故意でなくても出席者が持ち帰ってしまうケースもあります。同時通訳レシーバーは意外と高価なものなので、会議やセミナーなど

の開始前にレシーバーの使い方やチャンネルの説明等とともに、紛失を未然に防ぐためのアナウンスをしておくことが効果的です。



同時通訳レシーバー

#### Q6

当日は通訳者にどのような配慮をするべきですか？

#### A6

通訳者ブース内やその周辺の環境は、通訳者の仕事に大きく影響します。通訳中の水分補給や喉を潤すための水差しやコップは必ず用意しておきましょう。また、ブース内にゴミ箱を置いたり、ブース付近に控え用のテーブルを設置したり等、通訳者に最良の環境を提供することも重要です。

通訳者の依頼もすんだし、  
会場のレイアウトも決定したし、  
『同時通訳システム』は  
放送サービスセンターにお願いしたし…。  
まだほかにやっておくことはあるかなあ？





# 当日までのスケジュールをたてて、 事前に関係者の方々と 打ち合わせをしておきましょう。

## ■通訳者と打ち合わせ

あらかじめ資料等を渡して打ち合わせをしておくことが大切です。専門用語や特殊な固有名詞、講演者や発言者の所属・役職・氏名などのリストを渡しておく、より確実な“同時通訳”が実現できるのです。

## ■タイムスケジュールの作成

当日までのスケジュールはもちろん、搬入出・リハーサル・本番時それぞれのタイムスケジュールをたてましょう。設営や撤去は段取りよく行えるように機器や什器等の搬入出の順番を決め、時間配分をして各担当者や業者と調整をしておくことをおすすめします。

一般的に、出席者数が100～200名程度、1ブース、2カ国語仕様の“同時通訳システム”を設置する場合は2～3時間程度、撤去には設営時の約半分の時間がかかると考えておきましょう。ただし、他の搬入出物や会場設営の順番等によっては必要時間が変わるので、余裕をみておくべきでしょう。

## ■機器や什器、備品等の準備

会場内は出席者が資料を見たり、メモが取れる明るさを最低限確保することが大切です。必要に応じて、照明担当者を配置したり、専門技術者に依頼しましょう。

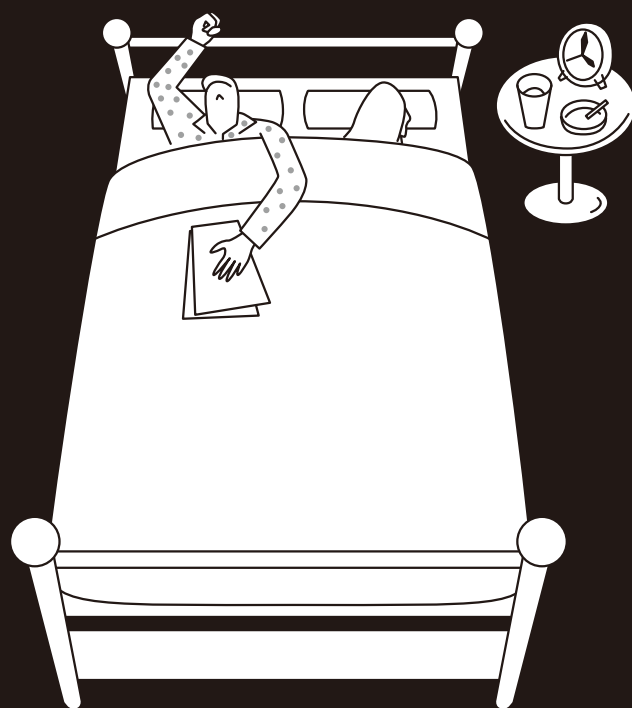
看板を設置する場合は、設置スペースや位置、方法などを考慮にいれて発注し、設置前には必ず文字やロゴ等の確認をしておきます。

また、会場内の花や緑は出席者の心を和ませるので、可能であれば準備するとよいでしょう。





**準備万端！**  
**さあ、明日は本番。**  
**がんばるぞー！**



# 『同時通訳システム』のご利用について おわかりいただけましたでしょうか。

同時通訳を必要とする会議やセミナー、講演会などを成功に導くには、主催者、出席者、同時通訳者、そしてサポートする確かな技術とサービスがひとつになって、はじめて成し遂げられます。



最初は誰でも準備や運営をむずかしく感じたり面倒に思ったりしがちですが、一度経験すると、終了後の達成感や出席者からのねぎらいの言葉に、次の機会を待ち遠しく感じるようになるでしょう。

なお、ご不明な点がございましたら、私たち放送サービスセンターまでお気軽にお問い合わせください。

皆さまのご要望に応じて最適な方法とシステムをご提案させていただきます。

